

特別講演 1

「一般臨床における貧血の診療」

福井大学副学長・福井大学医学部附属病院長

上田 孝典 先生

一般に貧血とは Hb 値が男性 13 (女性 12) g/dl 以下と定義されるがその病態は複雑である。病因 (代表的疾患) 別では、造血幹細胞の異常 (再生不良性貧血)、造血成分の欠乏 (鉄欠乏性貧血)、溶血 (溶血性貧血)、造血因子の欠乏 (腎性貧血)、二次性貧血 (症候性貧血、血液悪性疾患) などに大別される。

臨床における鑑別に際しては、平均赤血球容積 (MCV) により、大球性 (巨赤芽球性貧血)、正球性 (再生不良性貧血)、小球性 (鉄欠乏性貧血) に分類することが出発点となる。

一方頻度からみれば、約 80% は鉄欠乏性貧血であり、次いで症候性貧血であるので、一般医の立場からすれば、両者、特に前者の鑑別・治療が適切に行えることが重要であり、本疾患が否定的な場合には、血液専門医との連携により、診療をすることが望まれる。

本講演では、典型例の提示も含め、代表的貧血の診断と治療について概説する。